



▲5月末の開葉。去年の枯れ葉と今年の新葉、雄花が混在



▲冬のカシワ林（平成14年1月）



歴史のドアを開けよう

Natural History
第50回

いしかり博物誌

■石狩海浜植物保護センター ☎72-3240（冬期間）

ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

■文化財・博物館開設準備室 ☎72-6123

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

落葉しないのはなぜ？

カシワの越冬作戦

防風林や街路樹の木々が葉を落とし、雪が大地を覆う季節……。しかし、石狩の海岸に近い林では、茶色く枯れた葉が落ちることなく枝先に茂っています。さて、この枯れ葉、いつまで落葉しないで残っているのでしょうか。

この落葉しない木の名は、カシワ。東北以北の海岸林に多く見られる木です。

日本海からの強風が吹き抜ける冬の石狩浜。しかし、カシワの枝先から枯れ葉は落ちることなく、春を迎えます。五月下旬、新葉が芽吹くのと合わせて、冬を越した枯れ葉は落葉していくのです。

なぜ、カシワは冬の間、頑なに枯れ葉を着けつづけるのでしょうか。

木の葉と枝は、互いに養分や水分を行き来させるための微小

な管でつながっています（師管、導管と言います）。葉が落ちるとき、この管は途切れ、そこに微小ですが、穴が開くこととなります。この穴は自然に塞がれますが、やはり完全に塞がるには時間がかかります。

海からの強風は、海水すなわち、塩分を沿岸へ運びます。海岸を生活の場としているカシワにとって、葉を落としてしまうと、落葉の痕から、塩分が樹体内に入ってしまう兼ねません。これは、樹木にとって大きな障害です。

そこで、カシワは新葉が開くまで枯れ葉をつけたままにしておくことで、海から飛んでくる塩分から身を守る。このような説が一つに考えられています。

厳冬期、海に近い林で枯れ葉を茂らせた木を見つけたら、それはカシワ。北国の海岸の厳し

い環境を必死に生き抜く姿なのです。

昔より、北日本では海岸のカシワを薪炭材として利用してきた地域が多く、海岸の天然林の多くは失われてしまいました。しかし、石狩には天然のカシワ林が広く残ります。これは、先人達が防風林として守り残してきた、大変貴重な財産です。

（石狩海浜植物保護センター

内藤華子）



▶枯れ葉の間の冬芽（ふゆめ）。冬芽も、葉によって強風から守られているのでしょうか？